

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 3 月 5 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470101829		
法人名	社会福祉法人 あと会		
事業所名	グループホーム くにくさの家		
所在地	広島市安芸区阿戸町2941-1 (電話) 082-820-8088		
自己評価作成日	令和2年11月7日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470101829-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470101829-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年3月1日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気や個々の生活空間を大切に心安らかに暮らすことが出来る阿戸町の自然環境の中、少人数の認知症を持つご利用者と職員と一緒に家庭に近い環境の中で笑顔で共同生活を送っています。二ヵ月毎に運営推進会議を開催、地域の方に参加して頂き、情報交換をおこない、地域行事に参加させて頂き、地域密着型の事業所の役割を果たせるよう努めています。大雨等の災害発生時には地域の方が気にかけてくださったり、防災訓練時には参加して貰い地域との関わりを持ち支えられています。その人らしい暮らしを最後までおくれるよう法人のバックアップのもと、ターミナル時、家族と話し合いを行っている。3Yこころの理念を胸に安心・安全の提供、ご利用者の満足と誇りを保ち、個々がその人らしい生活が出来るよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

コロナ禍による自粛はあるが、最近の特徴的な取組みとして第一に「馴染みの人や場との関係継続の支援」に深化が見られる。即ち、事業所では現在のコロナ禍による面会制限下の中、基本的には家族との電話連絡等を介した関係継続となっているが、家族の要望に基づき、居室の窓越しに短時間の面会や制限の一部解除となった3月からは事前予約制に移行し、主介護者を中心に選定して過半数の家族との再会を実現している。又、遠方の家族とはメールでの写真送付やズームでのリモート面会等の工夫も見られる。第二に「災害対策」に深化が見られる。即ち、事業所は土砂災害警戒区域の境にあり、平成30年の西日本豪雨災害時には近接河川が溢れた経緯もあり、大雨警報による避難勧告時には近隣母体法人施設に毎回避難する体制をとっている。減災対策に向けたマニュアル作成や3日分の備蓄整備もある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	社会福祉法人あと会の共通理念3Yのころ（やすらぎ、ゆたかさ、よろこび）のもと、グループホームくにくさの家独自のスローガン「一人ひとりの思いを大切に安心した生活を提供します」を掲げ、現在は新型コロナウイルスにより新しい生活様式にて三密をとらない方法にて共通の認識を持ち、ケアの統一を図り生かしている。	法人理念を事業所理念とし、又事業所で策定したスローガンを掲示し、日々の意識付けに繋ぐべく職員が始業前に確認する伝言ノート表紙にも明記している。理念達成に向けて4視点の年間事業計画を設定、年度末に総括している。それに基づき各職員も半期毎の個人目標を策定し半期毎の個人面談で理念の達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域活動（町内清掃等）に積極的に参加している。新型コロナウイルスに感染しない、三密にならないように会議、行事は書類による報告のみとなってきたが、敷地内の菜園は引き続き近所の人々の協力にて季節ごとの野菜を食事に取り入れて美味しくいただいている。	現在はコロナ禍により地域清掃への職員協力等の他は外出自粛中だが、本来は近隣への散歩・買い物や町内会にも加入し、町民祭り等の地域行事への参加や初詣・花見等、季節行事での交流をしている。又事業所には多彩なボランティアの参加等の相互交流や地域小、中学生から鉢植えの寄贈等、世代間交流も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の方の理解を深めるため、運営推進会議（2ヶ月毎）・家族会にて話し合いを行っているが現在は新型コロナウイルスにより面会制限があり、メールや写真を送り情報提供を行い、意見を頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月毎に開催、現在は新型コロナにより面会制限がある為、情報提供を行い、意見を貰い、ケアの生かしている。	最近の会議はコロナ禍による自粛で書面による事前照会であるが、本来は定期的開催され家族・地域包括支援センター職員・民生委員等、多職種が参加している。会議では事業所の活動報告・意見交換が行われ、書面意見での提案によりリモート活用の面会に繋がった例がある。欠席家族には適宜情報発信している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の案内と報告を行っている。包括支援センターと交流を持ち、意見や協力関係を築いている。但し、現在は新型コロナの関係で情報提供にて意見・感想をいただいている。	コロナ禍以前は地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加、現在は会議資料を配布して情報共有を図っている。市町担当者とは日頃から相談や報告、行政主催の研修会や地域ケア会議他への参加を通して協力関係の構築を図っている。又、認知症サポーター養成講座への協力や災害時の避難勧告との連携等もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>現在、新型コロナの新しい生活様式にて、密にならない関係で勉強会を資料を見ながら意見がある場合はノートやその都度、密にならないよう少人数にて話をして身体拘束をしないよう、周知徹底を行っている。認知症の勉強会を行う際にも同じように資料をもとにケアの方法や困っていることなどを密にならない方法で検討している。</p>	<p>研修会等を通して職員は「拘束をしない」必要性を認識し、具体的なケアの中で実践を重ねている。身体拘束適正化委員会を概ね毎月開催して事例検討等を行っている。最近では地域的な不審者対策として玄関の施錠をしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>今年度は新型コロナの影響で新しい生活様式の中での勉強会で高齢者虐待等の勉強を資料をもとに虐待の無い事業所として全員で取り組み防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>今年度の勉強会は新型コロナの関係で新しい生活様式に合わせた資料を利用した勉強会をおこなっている。現在は成年後見制度においては包括支援センターより資料の提供をして頂き内容を勉強している。今は成年後見制度を利用している人はいないが今後入所される方がいれば活用していく。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>新型コロナの影響で面会制限を行っている関係でまずは電話にて話を行い、その時に希望や聞きたいことこちらでの生活内容をお伝えし、本人様への事前面接を行い、入所時ご家族様との契約等をしっかりと行っている。不明な点や聞きたいことはその都度、話している。また、改正があったときはその都度、説明し署名捺印をもらっている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>法人全体で苦情委員会を設置、苦情が発生した場合は迅速に対応できるようにしている。事業所内に意見箱の設置、ご家族へのアンケートを送付、意見や要望を取りまとめ、情報交換・改善に努めている。</p>	<p>家族とは面会・介護計画更新時・年1回法人によるサービス満足度アンケート・運営推進会議・年2回の家族会・苦情箱等で意見を把握し、法人の苦情委員会・伝言ノート・事業所会議等で情報共有をしている。コロナ禍での運営推進会議において書面意見での提案によりリモート活用の面会に繋がった例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>新型コロナで新しい生活様式の導入を生かした方法にて毎月のミーティングをノートや少人数での話し合いを行い、職員同士の意見交換を行い、また提案をノートに記入している。</p>	<p>適宜の職員会議、管理者と年2回又は随時の個別面談、伝言ノート等で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や職員目標の進捗状況等に対する支援体制を採っている。職員意見で行動手順冊子を作成した。生活ケア項目毎に取り外し可能、消毒し易いラミネート加工でコロナ禍の現場で活用している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>新年度の開始前に年間目標を決定時に全員の意見を反映した目標を作成、それを人事考課制度の利用にて、各自が目標設定を行い、目標の達成をすること共に各自が向上心を持ち働けるようにしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>新型コロナでの新しい生活様式の中で、法人内にある研修制度の利用、全職員に対して、経験年数、等級に合わせた各研修会に参加できる環境を作っている。また、本人希望等も含めた、外部研修参加する機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>今年度は新型コロナの影響にて新しい生活様式の導入し、グループホーム協会の研修や他事業者の方との交流をメールや手紙で、情報交換を行っている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>新型コロナの為、個別での面会を行い、サービス利用開始前に生活歴・人生歴の情報をご家族様やご本人から収集し、希望や意向をしっかりと聞き取りを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	新型コロナの中で面会制限がある環境内の中でも、サービス利用開始前には家族の話を傾聴し、しっかりと要望を伺い安心と信頼を持っていただけるように、こまめに情報交換をおこない、協力体制作りや信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	新型コロナと新しい生活様式の導入の中でも、サービス利用開始する段階で他サービス事業所と連携をとり、本人・ご家族が必要しているサービスを見極め、安心してサービスが利用できるような支援していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	新型コロナと新しい生活様式の中で個別に利用者と同じ目線でお互いに共感できる関係づくりに努めている。その人の家庭環境に近づけるよう情報収集を行い、良いケアを提供できるように努めている。また、ご利用者と一緒に活動することでより良い関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	新型コロナと新しい生活様式の中で、面会制限があるが本人と家族の絆を大切に、こまめに情報交換を行い、職員を含めた三位一体で手を取り合い喜び合える関係を築き努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自宅に帰られたり、馴染みの美容院へ行かれたり、受診等、家族に協力して頂き支援している。また、家族・知人が面会に来られやすい環境を作っている。新型コロナが発生してからは面会制限がしかれ、なかなか家族との面会も困難になっているが電話や写真にて情報提供を行っている。	「地域との絆」を大事にしており、馴染みの美容院・町内会から敬老会の祝い・家族旅行等を通して馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。現在はコロナ禍による面会制限下、メールでの写真送付やズームでのリモート面会、居室の窓越しに短時間の面会を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の共同生活の中で、しっかり観察し把握して個々の性格や認知レベル等を考慮して、利用者同士が良い関係を保てるよう支援している。新型コロナの関係で距離をとる生活様式になっている為、職員が個別でかかわりあっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用終了後もご家族とこれまで築いた関係性を大切に、相談に応じたり、継続してボランティアとして協力支援をして頂いている。今年度は新型コロナの影響で電話等での対応となっている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	現在は新型コロナと新しい生活様式の中で利用者の希望を把握し、その時々で一人ひとりに合った、生活を大切にしている。	利用者の習慣や好み等、基本情報を基にその後は利用者毎の担当職員等がその方に深く関わりをもつことで思いを汲み取り、伝言ノート等で共有している。家族情報は人生誌「老いても輝いて」等に記載している。例えば、その方の好きな音楽をテレビで流すと、笑顔で手拍子をされ、職員の声援で又笑顔が増した例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族からの情報提供を人生歴の冊子「老いても輝いて」等に記録し、職員全員が把握するよう努めている。また、その人らしい居室環境作りを継続して取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	新型コロナと新しい生活様式の中での日常生活を一人ひとりよく見て、密にならないようしながら自立支援に向け、出来る事をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>新型コロナや新しい生活様式また面会制限があり、本人・家族の希望しているものが提供できるようにアセスメント・フローチャートを活用し、定期的にモニタリングを行い介護計画を作成している。必要に応じて情報交換を行い、現状に応じたサービスの提供を見直している。</p>	<p>利用者毎の担当職員の収集情報を基に計画作成担当者が立案し適宜担当者会議で検討し、面会時等に家族の同意を得て本案としている。三ヶ月毎のモニタリング、半年を基本に計画を見直している。「日課計画表(24時間生活シート)」に「自分でできること」を特記し、その「強み」を重視した立案に努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>新型コロナや新しい生活様式の中でも日々の生活や個人の記録をとり、介護計画の見直しにいかしている。帰宅願望の強い方や介護に対し抵抗をされる人に対しては申し送りや連絡ノートの活用にて情報交換などを行いケアの統一を図っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>新型コロナや新しい生活様式の中でも母体施設職員の協力体制ができています。(ターミナル時、リハビリの必要時のアドバイス、栄養管理、行事等の協力)ご利用者の状況により、法人の看護・介護・栄養・リハビリスタッフ、事務等の協力を得ている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内会の方に運営推進会議の構成メンバーになって頂いたり、ボランティアの方々に協力して頂いているが新型コロナと新しい生活の導入、面会制限があり、施設内への受け入れが難しい状況の中、意見や情報提供等をいただいている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>新型コロナの中でも法人Drの定期的な回診や協力医療機関の受診など、その都度、適切な治療が受けられるような体制をとっている。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、大半の利用者は協力医を主治医としている。協力医への適宜の受診や法人協力医(理事長)から隔週毎の往診がある。コロナ禍のため専門医の受診先で家族と会う形もある。母体法人訪問看護から週1回の訪問や提携歯科医の往受診もあり、安心して医療が受けられるよう配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>新型コロナや新しい生活様式の中でも、法人内の訪問看護と契約しており、週1回の訪問と日々の情報提供にて健康管理を行っている。また、状態の変化がある時はその都度、直ちに連絡・相談を行い、受診や看護を受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療機関と連携をしながら、入院した利用者・家族が安心して過ごしやすいよう、また、早期退院が出来るよう情報交換や相談を行っている。馴染みの関係が途絶えないように入院中も関わりを持っているが現在新型コロナにて面会制限があり、面会が難いため家族との連絡や病院との連絡を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>看取り介護に関する指針を定め、早い段階から思いや家族の希望など話し合っている。重度化した場合、家族・医師・関係者と話し合い、その方針を共有、最善のケアが出来るようにチームの取り組みをしている。法人全体からの協力も得ている。</p>	<p>看取りを行なう方針であり、入居時「看取り介護に関する指針」を説明し了解を得ている。重度化した際は主治医・家族等で話し合い方針を決めて適切な支援を行っている。過去に看取り経験もあり認知症緩和ケアによる疼痛緩和や喪失と立ち直りのケア・経験値の高い職員の配置等、その方の思いに沿える様努めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>新型コロナや新しい生活様式の中、マニュアルに沿っての勉強会や対応の仕方を定期的に行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回、消防署の立ち合いによる、火災訓練や通報訓練、法人への協力通報訓練も合わせて行っている。運営推進会議で民生委員を通して、近隣住民の協力を依頼している。また、大雨警報の発令時には特別養護くなくさ苑に避難している。避難時のマニュアル作成を行い、スムーズに避難できる体制を作っている。</p>	<p>消防署立ち会いの下、運営推進会議開催日も含め年2回の避難訓練を夜間想定、利用者参加にて実施している。民生委員を通して地域に災害時の協力要請を行い、事業所は大雨警報による避難勧告時には近隣母体法人施設に毎回避難する体制をとっている。備蓄体制も3日程度の食糧・飲料水等を整備している。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	新型コロナや新しい生活の中、資料による勉強会だが意識の向上を図っている。職員は常に自分の言動に注意し個々のご利用者と接している。配置職員はケアの経験者や生活経験者のある職員を選んでいる。毎年、外部講師による、接遇研修を受講している。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者に対する言葉かけも不適切な対応には指導や気づきを促すが、気づけば職員同士でも声を掛け合っている。外部講師が夜勤帯に入り現場を評価・検証している。職員も利用者との目線の高さを合わせたケアに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	新型コロナや新しい生活の中、個別に一人ひとりに合わせた声かけを行い、ゆったりとした時間が持てるよう、自立支援に繋がるような声かけや対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	新型コロナや新しい生活の中、一人ひとりの生活に合わせて、買い物（職員が聞いて購入したりご家族に依頼をする）や受診などの支援を行っている。ゆっくりした時間や流れに沿って、希望に合わせた趣味が出来る暮らしが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	新型コロナの発生で面会制限がある。衣類は家族が用意されているが美容院に行くことが出来ない人には出張カットの依頼をしていたが現在難しいため、職員が本人に聞ける人には聞き、難しい人にはご家族に聞きカットでの対応をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	管理栄養士により、栄養バランスとカロリーが計算されたメニューの提供と畑でとれた旬の野菜や利用者が食べたい物を取り入れて楽しい食事が出来るように取り組んでいる。	法人管理栄養士の献立により真空低温調理された副食が届き、職員が仕上げ、主食と味噌汁を添えて提供している。菜園で収穫した野菜を活かしたり、苦手な食があれば調理に一手間加えて好みに近づけ、利用者からは下膳等を行っている。駐車場で焼肉をしたり、地域婦人会からのうどんの差し入れもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>法人内の管理栄養士が栄養管理をし、指導してもらっている。体調に合わせて調理・食器・盛り付けなど工夫をしている。水分は一日1.50を目安に好みの飲み物や器で提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアを本人の能力に合わせておこなっているが出来ない人には感染防止を意識しながら職員が介助を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>新型コロナや新しい生活様式の中、個々に合わせてトイレ誘導や記録を付ける事で排泄機能の維持や自立の支援を行っている。</p>	<p>その方の排泄パターンを把握したトイレ誘導を基本としている。退院時の紙おむつから紙パンツへの移行、1日1回はトイレに座る生活習慣、トイレで排泄があるまで座る「待つ介護」等、状態に合わせた排泄の自立支援を行っている。夜間排泄時の転倒防止の為、センサーマット、便座に鈴設置等の環境整備も行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食事時（牛乳・ヨーグルト・果物・ごぼう茶）の工夫と水分1.50を目安に便秘解消に取り組んでいる。それでも困難な人には主治医に相談して便秘薬を服用してもらっている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>新型コロナや新しい生活様式導入の中、本人の健康状態や希望に合わせて，入浴して頂き、ゆったりと気持ちよくなってもらえるようにしている。</p>	<p>週2回の午後浴が基本だがコロナ禍で午前となったり、利用者の体調や入浴習慣に合わせて好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。利用者の体の負担を考慮し、シャワー浴や足浴で対応することもある。半埋め込み式家庭浴槽の出入りし易い位置に手すり等の環境を整えている。冬至の柚子湯、5月の菖蒲湯等も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>日中は生活リズムに合わせて活 動し、夕方からはゆっくりとくつ ろげる時間を持ち、夜間はしっ かりと睡眠が取れるよう配慮し ている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>職員全員で日々の様子観察を行 い、症状の変化などは記録し、情 報共有を行っている。（申し送り や連絡ノートに等）</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>新型コロナや新しい生活様式の中 での日々の生活の中、その人に 合った役割や塗り絵・歌など張 りあいや喜びが得られる支援を 行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。</p>	<p>利用者の希望に応じて、散歩や 買い物など戸外に出られる支 援を行っていたが現在新型コロナ や新しい生活様式の中、面会制 限もあり、戸外への支援が困難 となっているが施設内で対応で きる範囲で支援を行っている。</p>	<p>現在はコロナ禍で外出自粛だが、 本来は事業所周圍の散歩・菜園 での野菜収穫・買い物や花見・ 紅葉狩り等を行っている。また 季節の外出行事や町民祭り・と んど祭り他の地域行事等、普段 は行けないような場所で「非日 常」を楽しんだり、家族との外 食・遠方への旅行等、個別外出 支援も行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>本人の希望と家族の支援にてお 金を所持している方もおられ、 買い物等の支援をしている。週 一回の移動販売によるパンの購 入をされていたが新型コロナの 影響と面会制限がある為、現在 は中止しているが新型コロナが 収束したら、再開を検討してい る。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>新型コロナの関係で面会制限がある為、手紙を書かれたものを投函したり、電話をかけたい方にはその都度、支援をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>広くゆったりとした食堂・リビングは吹き抜けになっており、自然光や風が入ってくるなど、自然との調和がとれた共有スペースになっている。畳コーナーや応接室など窓から山々や風景を眺める事ができ、居場所づくりにも配慮している。冬場には床暖房により暖かな環境も出来ている。</p>	<p>季節の花や正月・小上がりの雛飾り等、行事の飾り付けや利用者で作る墨絵等の壁掛け作品を飾っている。木を基調とした温もりの設えでリビングの吹き抜けに開放感がある。外のウッドデッキで洗濯物を干したり、「春は菜の花、秋は実りの黄金色」の景色が堪能できる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>新型コロナと新しい生活様式の中でも、ソファなどの利用により、寛げる場所が出来ている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人が使い慣れた物や思い出のあるもの（写真など）を持参いただき、各部屋で自分らしく過ごせるようにご家族に協力してもらっている。</p>	<p>和・洋二仕様の居室には電動モーター付き木製ベッド・チェスト等が備え付けられ、仏壇・鏡台等、使い慣れた物やアルバム・教え子から寄贈の胸像等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。又、押し入れの中の棚に座って利用者が衣服を整理・収納し易い設えにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>グループホームとして設計、建設しており、身体機能への配慮をしている。個々に合わせた手すりやベット（スウェーデンベット）を設置している。利用者と一緒に寛げる空間の中でできることを行っている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームくにくさの家

作成日 令和3年度4月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	マニュアルの見直しについて。	新年度に向けてマニュアルの見直ししていく。	今あるマニュアルを再検討を行い、より分かりやすいものにしていく。	1年間
2	32	入退院時の医療機関との情報共有を行っているが不足点がある時がある。	退院時に入院するまでの状態で生活ができるようにする。	入退院時に情報不足が無いよう確認とチェック表を作成。	1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。